

いちやなぎ ひろゆき

【一宮町長賞】 一柳 博之

君に生まれつきの障害があると解った時は、とてもショックでした。

いくつになっても言葉を発することの出来ない君の姿を見るのが辛かった。

「どうしてうちの子が。普通の子であればそれで十分なのに。」ついそんなことを思っていました。しかし特別支援学校を卒業し、ついに成人となった君は本当によく成長してくれた。身のまわりのことをするのはもちろん、こちらの言うことはちゃんと理解出来るようになりました。いつしかそんな君の成長する姿を見るのが楽しみになったのです。

そして先日、お母さんがケガで入院しました。君のことをずっと一人で育ててきてくれた人が急にいなくなって、果して平常心でいられるだろうか、作ったごはんをちゃんと食べてくれるだろうか、それがとても心配でした。しかしそんな心配をよそに、君は本当にいつもと変わらず明るくふるまってくれた。作った料理は一つ残らず食べてくれましたね。

本当に嬉しかった。しかし何度か不意に涙を流したことがあります。

やはり淋しかったのでしょう。それでも明るくふるまってくれたのは、きっと君なりにこの状況を理解してくれていたからです。

「お母さんがいないからお父さんが家の中のことをしてくれている。

だから私もしっかりしなくては。」淋しさや不安と必死に闘いながら、きっとそう思っていたのだと思うと、今にも涙が出そうです。言葉を発することの出来ない君が、父親のことを思いやってくれる、ここまで成長してくれたのか、と。

確かに障害があると解った時はショックだった。でも今は、こんなに成長してくれた君を見るのが本当に楽しみで、とても幸せです。生まれてきてくれてありがとう。

これからも笑顔を忘れず、ずっと元気でいてください。

そしてまわりの人に感謝する気持ちを忘れないでください。

そうすれば、きっと君なりの幸せな人生を送ってくれると信じています。

(岐阜県 / 62歳 / 男性 / 自営業)